



ソ・ウォンハ神父

今年も花見の季節が参りました。去年より少し早い時期だったので見逃すところでしたが、近所のおじさん達と一緒に素敵な夜桜を観ることができました。たくさんの方が集まった中、帰りの何人かが「来年もまた観れるといいね」とのお話が聞こえました。さて、そもそも花見はほぼいつでもできますが、どうして私たちは春の花に憧れるのでしょうか？また、来年を待つ理由はどのようにしてでしょうか？

春の花見が特別な理由は春の前、冬があるからだと思います。寒くなる環境のこともあります。年末年始を含めいろいろあった一年を納め、少し落ち着く日常が始まる時期に春と花は訪れます。元旦に登る太陽のように、新しく生まれる花を観ながら新しい希望に満たされます。同時に、また来年まではまだたくさんの宿題が残っていることに向き合うことになります。お仕事や人間関係、健康などと今年を上手く乗り越えられるか少し心配になることもあります。

春に憧れること、来年を期待することは復活を待ち望むことと似ています。冬がなければ春は憧れないです。散る花がなければ咲く花は素敵だと思わないです。いろいろあった一年がなければ来年を期待することもありません。苦しみがなければ復活はただ良い姿だけを見せかける芝居に過ぎないです。春が訪れること、命が芽生えること、復活を生きること。これらはいろんな苦勞を前提しています。しかし、だからこそその暖かさに、景色に、輝きに希望を持つことができます。

今、皆さんはどんな時間をお過ごしですか？

穏やかに過ごす方もいれば、ばたばたしておられる方もいると思います。素敵な春を、希望の復活を迎えるために、もう少し頑張りたいと思います。

